

日本小児科学会学術委員会研究活性化小委員会主催

「臨床統計学ハンズオンセミナー」報告

開催日時：平成30年2月17日（土）12:00~17:20

開催場所：エッサム神田ホール1号館

（所在地）東京都千代田区神田鍛冶町3-2-2

参加費：5,000円

参加者数：34名

国立成育医療研究センターと共催で臨床統計学ハンズオンセミナーを開催した。同センター小林徹先生が行っているハンズオンセミナーの方法により、実際にパソコンを用いた講習が行われた。全国から40名の申し込みがあり、34名が参加した。研究活性化小委員会委員の他、高橋孝雄会長、香美祥二理事にも参加・ご挨拶をいただいた。

<プログラム>

1. 統計学の基礎の基礎：P値に使われるな！（30分）
2. 基本的な検定方法：データの「型」を知れば怖くない（40分）
3. 生物統計ハンズオン：データをいじってみよう！
 - a. 要約統計量の計算・図表の作成（30分）
 - b. 連続変数の検定（60分）：unpaired t検定, Mann-WhitneyのU検定, Paired T検定, Wilcoxonの符号付順位和検定, 相関分析（Pearson, Spearman）
 - c. 離散変数の検定（45分）：カイ二乗検定, Fisherの正確確率検定
 - d. 多群間の比較（45分）：分散分析・K-W検定（post hoc含む）, Trend test
4. ゲノム関連データベース等の研究活用（30分）

<アンケートの実施と回答について>

講習会終了後、参加者34名にアンケートを実施し、31名から回答を得た。参加者のプロフィールとニーズは以下の通りであった。

卒業年度：半数が2001年~2010年、30%は2010年以降。

昨年度発表論文数：40%がなし、50%が1~2本であった。

本ハンズオンセミナーの内容について、基礎理論・検体方法・ハンズオンのいずれについても、60%以上の人が「ちょうど良い」と回答しており、今回の参加者層に対しては適切な内容であったことが確認され、概ね肯定的な評価をいただいたと考えた。

「学会発表・論文発表を実施していきたいと思うか」との問いに対して全員が、「強く思う」ないし「そう思う」と回答し、「自施設の臨床研究教育システムや支援体制に満足か」という問いに対して80%が「あまり満足していない」ないし「満足していない」と回答しており、学会を挙げての継続的な支援が必要と確認された。

また、コース開催については70%の参加者が学会のホームページで知ったと回答し、開催案内と募集期間の周知についても90%が適切と回答しており、今後の周知の方法を探る上で参考となった。

企画・立案にご尽力をいただいた、国立成育医療研究センターの小林徹先生、三上剛先生、井手健太郎先生、小林しのぶ先生、ご支援をいただいた国立成育医療研究センター臨床研究開発センター長 齊藤和幸先生にこの場を借りて厚く御礼申し上げる。